

サステナビリティ戦略



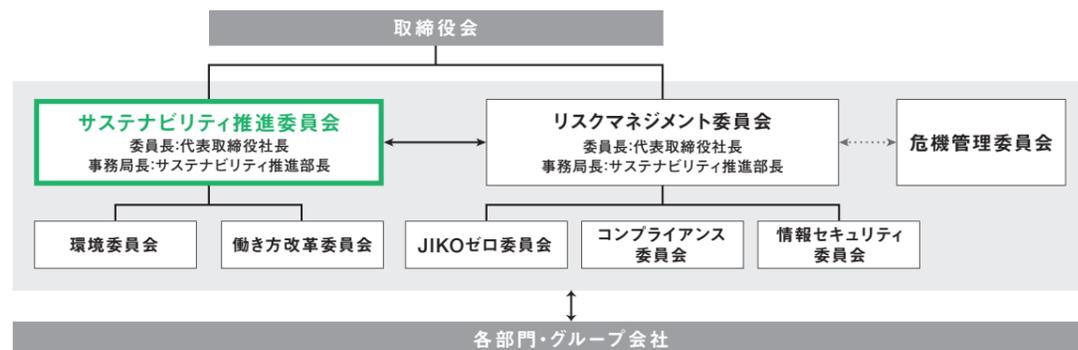
すべてのステークホルダーに寄り添い、協働することで、これからも感動と新しい価値を創造し続けます。

サステナビリティ推進体制

トリドールグループは代表取締役社長を委員長とし、取締役、執行役員、トリドールホールディングスの部門長、国内子会社社長、海外子会社社幹部部門長を委員とする、「サステナビリティ推進委員会」を設置しています。同委員会は、環境・社会問題など多岐にわたる経営課題に対して企業として対応していくための全社横断組織として機能しています。また、サステナビリティ推進部を設置し、リスクマネジメント委員会、働き方改革委員会、環境委員会などの運営と、全社横断的なサステナビリティ活動の推進を行っています。



サステナビリティ推進委員会でのワークショップの様子



サステナビリティ基本方針

私たちトリドールグループは、「食の感動で、この星を満たせ。」をスローガンに掲げ、お客さま・従業員そしてすべてのステークホルダーに寄り添い、コミュニケーションと協働を図ることでこれからも新しい価値と感動を創造し続け、持続可能な社会を実現することを目指しています。取り組みにあたっては、高い倫理観と誠実な事業活動を前提に、グローバルな視点で考え、地域に根差した実践的な活動を推進します。

イニシアティブへの参画

トリドールグループは、2020年8月に「国連グローバル・コンパクト」に署名し、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野からなる「国連グローバル・コンパクト10原則」を支持しています。日本におけるローカルネットワークであるグローバル・コンパクト・ネットワーク

ク・ジャパンにも加入しています。その他、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)にも2022年9月に賛同を表明しており、イニシアティブへの参加を通じ、さまざまなステークホルダーと連携して取り組みを進めています。

ESGマテリアリティ(重要課題)の特定プロセスと見直し

トリドールグループはグローバルに事業展開しており、多岐にわたる社会課題とのかかわりがあります。そのため、それら多くの社会課題の中で優先順位をつけ、選択と集中により活動を効果的に行う必要があります。当社グループは2022年3月、社会からの関心度が高く、自社にとって影響度の高い社会課題を、ESGマテリアリティ(重要課題)として特定しました。また、従業員一人ひとりが具体的にESGマテリアリティに取り組みめるよう、KPIを設定し、活動の進捗を測っていきます。

の見直しを行いました。これまでのマテリアリティ候補に加え、DJSI、MSCI、CDPなどのESG評価機関から当グループ該当セクターにおける優先順位を可視化するとともに、人的資本に関するISO30414も加味しながら、ガバナンス組織において議論を重ね決定。

感動体験を生み出すためには、まず全従業員の満足度が重要であるとの考えから、より伝わりやすい表現として「人と社会とともに」の категориを「私たちのハピネスを高める」へと変更し、そのKPIも多岐にわたる内容を設定しました。また、その他のテーマについても該当責任組織と議論し、KPIの調整を行いました。

さらに、社会環境の変化を踏まえ、2024年度にESGマテリアリティ

- STEP 1 課題のリスタップ**
GRIスタンダードやSDGs、ISO26000、グローバル・コンパクトなどの国際的なガイドラインやフレームワークを参考に、社会課題を網羅的に抽出。さらに、グループ役員・部門長など計18名に対する社内ヒアリングを実施し、セクターもしくは自社特有の課題を洗い出し、マテリアリティ候補を選定。
- STEP 2 ステークホルダーエンゲージメントによる重要度の評価と検討**
マテリアリティ候補に関して、外部有識者、将来世代/お客さま、従業員との対話を実施し、イシューに対する妥当性や懸念点などを検証。
● 一橋大学 商学部教授 加賀谷 哲之氏 ● 三井住友銀行 ホールセール統括部サステナブルビジネス推進室部長(当時) 末廣孝信氏
● 駒澤大学学生(将来世代/お客さま代表) ● 従業員(店舗・本社スタッフ)
- STEP 3 仮説の再検討**
前ステップの検証結果をサステナビリティ推進委員会事務局にてマテリアリティに反映し、再度グループ役員・部門長などから意見を収集。社内外のステークホルダーからの意見を総合判断し、最終的な優先順位づけを実施。
- STEP 4 経営層による決定**
社会からの要請と自社における影響度の2軸で整理し、重要度が高いと判断されたイシューをグルーピングし、取締役会にて承認。

ESGマテリアリティの推進を前提としたポジティブ・インパクト・ファイナンス

トリドールホールディングスは2022年、三井住友信託銀行株式会社との間で国連環境計画・金融イニシアティブが提唱する「ポジティブ・インパクト金融原則」に即した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の融資契約を上場国内飲食業ではじめて締結しました。本融

資は企業が環境・社会・経済に及ぼすインパクトを包括的に分析・評価した上で企業活動の継続的な支援を目的として行われるもので、当社もSDGs達成に向けた貢献度合いと関連するESGマテリアリティの進捗状況を毎年モニタリングいただいています。

ESGマテリアリティ(重点課題)

2025年3月期ESGマテリアリティ

カテゴリー	マテリアリティ	KPI	結果(期間:2024年4月~2025年3月)	対象範囲								
				トリドールHD	丸亀製麺	KONA'S	肉のヤマ牛	トリドールジャパン	トリドールD&I	ZUND	アクティブソース	
私たちのハピネスを高める風土づくり	私たちがハピネスを高める	● ハピネスを測定するサーベイの整備	● サーベイの開発を実施 達成		●							
		● 女性の管理職比率:18%	● 20.00% 達成	●	●	●	●	●	●			
人が居続ける組織	私たちのハピネスを高める	● 社員の離職率:15%未満	● 13.60% 達成	●	●	●	●	●	●			
		● 新規採用数(中途&新卒)の30%を内部登用	● 23.00% 未達成	●	●	●	●	●	●			
		● 全従業員における永年勤続者率(10年以上):8%以上	● 7.80% 未達成	●	●	●	●	●	●			
一人ひとりの成長の支援	P33	● ハピネスを高めるコミュニケーション系研修の整備	● グループ全体の店長向けコミュニケーション研修受講率向上 達成		●			●				
		● 麺職人資格者全店配置の維持 ● 麺職人資格社員へのフォロー研修:100%	● 2月末時点で全店舗100%維持 達成 ● フォローアップ研修(CMGR:100%、MGR:86.6%) 未達成		●							
食の楽しさ・豊かさの提供	P34	● 出店数:2,264店	● 2,049店舗 未達成		●	●	●	●		●	●	
● (本社)フードセーフティ研修受講率:90% ● (店舗)外部衛生検査機関による年2回の衛生監査の実施 ● (店舗)食品衛生法上の行政処分:0件		● 研修受講率96.5% 達成 ● 上期930店舗、下期932店舗衛生検査実施 達成 ● 行政処分0件 達成	●	●	●	●	●					
気候変動対策	P35	● CO ₂ 排出量:133(kt-CO ₂) ● CO ₂ 排出量(原単位):0.86(t-CO ₂ /百万円)	● 127(kt-CO ₂) 達成 ● 0.78(t-CO ₂ /百万円) 達成	●	●	●	●	●				
		● 食料廃棄物排出量(原単位):175(kg/百万円) ● 食品再生利用等実施率:17(%)	● 165(kg/百万円) 達成 ● 26(%) 達成	●	●	●	●	●				
資源循環の推進	P35	● 水使用量(原単位):29.3(m ³ /百万円)	● 24(m ³ /百万円) 達成	●	●	●	●	●				
		● テイクにおけるプラスチック使用量(原単位):40.2(kg/百万円)	● 50.9(kg/百万円) 未達成		●	●	●	●				
サプライチェーン・マネジメント	P36	● 環境マネジメントシステム認証:丸亀製麺全店舗、一部トリドールジャパン(天ぶらまきの)	● 丸亀製麺全店舗、天ぶらまきの店舗導入完了 達成		●			●				
		● サプライヤーへのアンケート実施	● 国内のトリドールグループ全体仕入額の上位30社に対してアンケートを実施 達成		●	●	●	●		●	●	
リスクマネジメントシステム構築	P36	● ISO22301*認証の維持 ● 安否確認応答訓練(年4回)72時間以内、応答率80%以上	● ISO22301認証の維持の対象はHDのみ 達成 ● 年4回(6・9・12・3月)実施予定の中、システム不具合により3月実施できず(各月の応答率:6月77.5%、9月86.4%、12月91.9%) 未達成	●	●	●	●	●			●	

* ISO22301に関しては、株式会社トリドールホールディングスにて取得

2026年3月期ESGマテリアリティ

KPI(期間:2025年4月~2026年3月)	対象範囲								
	トリドールHD	丸亀製麺	KONA'S	肉のヤマ牛	トリドールジャパン	トリドールD&I	ZUND	アクティブソース	
● 丸亀製麺で社員・PSへの展開が完了		●							
● 女性の管理職比率:国内グループ全体で20%	●	●	●	●	●	●	●	●	●
● 社員の離職率:15%未満	●	●	●	●	●	●			
● 新規採用数(中途&新卒)の30%を内部登用	●	●	●	●	●	●			
● 全従業員における永年勤続者率(10年以上):8%以上	●	●	●	●	●	●			
● 労働災害 千人率:1.8未満		●	●	●	●				
● ハピネスを実現する店舗マネジメントスキル向上のための研修の実施		●	●		●			●	
● 麺職人資格者全店配置の維持		●							
● 出店数:2,125店		●	●	●	●			●	●
● (本社)フードセーフティ研修受講率:90% ● (店舗)外部衛生検査機関による年2回の衛生監査の実施 ● (店舗)食品衛生法上の行政処分:0件	●	●	●	●	●				
● CO ₂ 排出量:136(kt-CO ₂) ● CO ₂ 排出量(原単位):0.8(t-CO ₂ /百万円)	●	●	●	●	●			●	●
● 食料廃棄物排出量(原単位):170(kg/百万円) ● 食品再生利用等実施率:25(%)	●	●	●	●	●			●	●
● 水使用量(原単位):33(m ³ /百万円)	●	●	●	●	●			●	●
● テイクにおけるプラスチック使用量(原単位):40.5(kg/百万円)		●	●	●	●			●	●
● 環境マネジメントシステム認証:丸亀製麺全店舗、一部トリドールジャパン(天ぶらまきの)、コナス珈琲、とんー(全店舗)		●	●		●				
● サプライヤーへのアンケート内容の再検討		●	●	●	●			●	●
● ISO22301認証の維持 ● 安否確認応答訓練(年4回)72時間以内、応答率80%以上	●	●	●	●	●	●		●	●

私たちのハピネスを高める

- 戦略／指標および目標 ESGマテリアリティ(P31-32)
- ガバナンス／リスク管理 サステナビリティ推進委員会、働き方改革委員会等
- 関連方針 トリドールグループ人権方針、ダイバーシティ推進基本方針

社内ハピネスプログラムと称賛共助の社内アワード

トリドールグループでは、国内外全社員を対象に、「KANDO」を創出したプロジェクトやお店でのエピソードを表彰する社内コンテストを開催しています。グランプリは世界中から2,000人以上の社員が集まる全社会議にて決定。本アワードでは、業態や部門、国境をも超えて、共通の使命を再確認し、仲間を称え・刺激し合い、学びを得ることができます。

過去の受賞事例には、従業員のハピネス向上を目的に実施しているTam Jaiの従業員の子どもたちに対する奨学金プログラムがありました。香港のTam Jai勤務年数が3年以上等の複数の条件を満たす従業員に対し、現地大学1年あたりの学費最大80%を補助するという奨学金プログラムです。制度を受けた子どもたちに対しては72時間のインターンシップの機会を提供し、社員が日々家族のことを想い、どのように働いているかということを実際に体験することができ、最後には親子で抱き合う感動的なシーンもありました。



Tam Jaiでの奨学金プログラムのインターンシップ

ダイバーシティの推進

トリドールグループでは従業員それぞれが多様性を受け入れ、互いを理解・尊重しながらその人らしい個性を発揮することで、新たな価値を創出し続けることを目指しています。女性の活躍推進はもとより、シニア層の活躍や、特例子会社トリドールD&Iによる障がい者雇用の推進、さらには性的マイノリティ(LGBTQ)に関する制度整備や理解促進に取り組んでいます。その取り組みの一環として、LGBTQの祭典「東京プライド」に3年連続で出展しています。イベント限定のレインボーの「丸亀うどん」などで会場を盛り上げました。こういった活動の結果、任意団体work with Prideによる「PRIDE指標」において、2025年3月期も最高ランクのゴールドを受賞しました。



東京プライド出店の様子／PRIDE指標



丸亀市で開催「丸亀うどん祭り2025」

2025年11月、丸亀市市制20周年と丸亀製麺創業25周年という節目に、丸亀製麺と香川県丸亀市、日本うどん協会など多くの関連団体が協働し、讃岐うどんの原点と進化を五感で感じていただくことを目的とした「丸亀うどん祭り」を共催しました。ギネス世界記録への挑戦や全国の讃岐うどんの有名店が競い合う「SANU-1 GRAND PRIX」、うどんの食べっぷりを競うコンテスト、さまざまな地元有名うどん店とのコラボレーション、イベント限定の「丸亀うどん」の出店、青空うどん教室など幅広いイベントでご来場のお客さまをお迎えしました。



丸亀うどん祭り2025



食の感動創造

- 戦略／指標および目標 ESGマテリアリティ(P31-32)
- ガバナンス／リスク管理 サステナビリティ推進委員会
- 関連方針 お客様対応基本方針

「丸亀うどん」テイクアウト専門店オープン

2024年6月より丸亀製麺では新たな感動体験として、うどんの特徴であるもちもちの食感を活かし、お客さまにわくわくを感じていただける商品「丸亀うどん」を販売しています。2025年5月には愛知県春日井市にテイクアウト専用のトレーラー型店舗「丸亀うどん」をオープンしました。また、丸亀うどん専用のキッチンカーも始動しており、さまざまなイベントで活躍しています。



トレーラー型店舗「丸亀うどん」

MARUGAME UDON韓国・ソウルに1号店出店

MARUGAME UDONは2011年にハワイ・ワイキキ店を出店以来、米国、台湾、香港、インドネシア、ベトナム、イギリスなど海外展開を積極的に進めてきました。2025年9月には韓国1号店をソウル市内のロッテワールドタワーモールにオープン。本出店で丸亀製麺の海外展開は12の国と地域に拡大となりました。韓国での目標として、Lotte Global Restaurant Service Co, Ltd.(Lotte GRS)と協業し、今後5年間で35店舗の展開を目指しています。



MARUGAME UDON韓国1号店

丸亀市の離島・讃岐広島で15年ぶりの小中学校再開

讃岐うどんの手づくり・できたての感動を広めたいという想いから丸亀製麺を創業したトリドールグループにとって、香川県丸亀市は特別な場所です。この丸亀市の離島・讃岐広島にトリドールHDの社員が移住し、地域の皆さまと相談を重ねながら地域の活性化に取り組んでいます。こうした地道な活動の結果、2025年4月には約15年ぶりに島内の小中学校が再開しました。トリドールHDの丸亀市への企業版ふるさと納税4,500万円のうちの多くを小学校・中学校開校のリノベーションに活用。また、瀬戸内海の島々を巡り、子どもたちの無限の好奇心を引き出す「こども図書館船 ほんのもり号」の運航支援も行いました。



丸亀市立広島小学校・中学校／こども図書館船ほんのもり号

地球とともに

- 戦略／指標および目標 ESGマテリアリティ(P31-32)、環境経営目標
- ガバナンス／リスク管理 環境委員会、サステナビリティ推進部
- 関連方針 環境経営方針

2024年度の環境経営目標に対する実績

2024年度における国内トリドールグループの環境経営目標については、全項目で達成となりました。各目標のうち売上原単位目標(売上100万円あたりの目標)については、売上の好調を背景にしつつ、各店舗における茹で麵予測の精緻化や節電の取り組みの推進により改善しました。また、セントラルキッチンを持たずに各店舗でできたてを提供する特色からネックであった食品リサイクル率についても、テナント店舗における実績の算入やリサイクル実施エリアの拡

大に伴い大幅に改善し、目標を上回る形での達成となりました。エコアクション21(環境省が策定した環境マネジメントシステム)については丸亀製麺の全店舗導入に続き、天ぷらまきのへの導入も達成し、グループ全体の環境に関するマネジメント体制をより強固なものにしていく下地を整備することができました。今後も着実に環境経営目標を達成し続け、グローバルフードカンパニーとして業界をリードできるよう努めます。

項目	目標数値	2023年度までの実績						2024年度		2025年度以降の目標			
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	目標	実績	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
食品廃棄物排出量削減	排出量原単位(kg/百万円)	271	250	259	232	190	186	175	165 【達成】	170	160	150	140
食品リサイクル率向上	再生利用等実施率(%)	13	14	15	15	16	17	17	26 【達成】	25	35	45	55
CO ₂ 排出量削減	総排出量(kt-CO ₂)	135	131	123	123	115	119	133	127 【達成】	136	140	155	160
	排出量原単位(t-CO ₂ /百万円)	1.29	1.14	1.28	0.96	0.91	0.9	0.86	0.78 【達成】	0.8	0.75	0.7	0.68
水資源の有効活用	使用量原単位(ml/百万円)	48	47	46	35	26	29	34	24 【達成】	33	32	31	30
環境マネジメントシステム導入	導入店舗数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
				丸亀製麺 10店舗	丸亀製麺 10店舗	丸亀製麺 10店舗	丸亀製麺 240店舗	丸亀製麺 全店	丸亀+ まきの	丸亀+ まきの	+1業態	+1業態	+1業態

国内外での割り箸リサイクルの取り組み

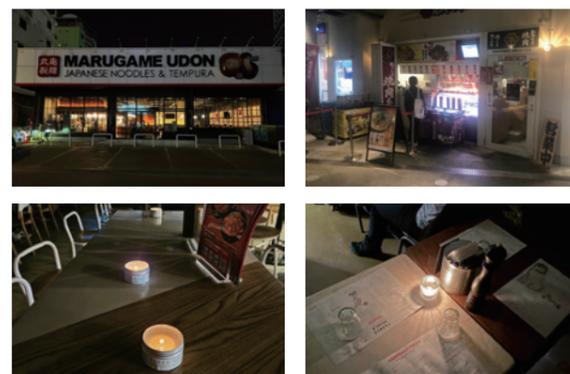
丸亀製麺では2025年3月より、ChopValue Manufacturing Japan株式会社と協働し、川崎市内の5店舗にてお客さまの使用済み割り箸を回収し、家具等の木材にアップサイクルする取り組みを開始しました。本取り組みは、MARUGAME UDON カナダ1号店であるバンクーバーのダムスミューア店で先んじて実施しており、ChopValue Manufacturing Japan株式会社の日本での操業開始に伴い、川崎市での協働を開始しました。割り箸アップサイクル由来の木材は、今後家具などに加工され販売される予定です。今後もグローバルフードカンパニーとしての強みを活かし、取り組みを国内外に横展開していきたいと考えています。



割り箸をアップサイクルしたMARUGAME UDON カナダ1号店の看板

環境啓発活動「EARTH HOUR」に国内外トリドールグループ合計1,111店舗が参加

トリドールグループでは、世界中の人々が同じ日・時間に1時間消灯することで地球環境保全への意思表示をするプロジェクト「EARTH HOUR」へ毎年参加しています。2025年はトリドールグループ内で過去最大となる世界11か国、合計1,111店舗(国内11業態、海外9業態)が参加し、店舗で看板等の消灯を行いました。これからも、お客さまをはじめ社内外のステークホルダーと連携し、環境負荷低減の活動を続けていきます。



トリドールグループの国内外での消灯の様子

責任ある経営基盤の構築

- 戦略／指標および目標 ESGマテリアリティ(P31-32)
- ガバナンス／リスク管理 国内SCM本部、海外SCM本部、サステナビリティ推進部
- 関連方針 トリドールグループ調達方針

生産者との関係性強化

トリドールグループは、各地域の生産者や農業協同組合との信頼関係の構築と地域への還元が重要と考えており、さまざまな地域と包括連携協定を結んでいます。その一環として2025年9月に徳島県にて丸亀製麺の管理職を対象に、各2日間のすだち収穫研修を2回実施しました。丸亀製麺では100%徳島県産のすだちを使用していますが、生産側とそれをお客さまにご提供する側とが交流することで、すだちの魅力や取り巻く課題、食材の重要性の理解につながりました。



すだち収穫の実地研修



すだち収穫

徳島県との地域包括協定の取り組み

徳島県との地域活性化包括協定の活動として、2025年6月に開催された「第20回食育推進全国大会 in TOKUSHIMA」にて「丸亀うどんまつり」を無償提供するとともに、同大会で開催の「ミライをむすびコンテスト」の最終審査員として参加し、食育活動を支援しました。コンテストで提案されたおむすびのひとつは実際に丸亀製麺で商品化し、期間限定で徳島八万店にて販売。また徳島県内のイベントへのキッチンカー出向やフードパントリー寄付、地域のスポーツ支援など多岐にわたる取り組みを行っています。



コンテストでの審査の様子

北海道美瑛町との地域包括協定の取り組み

丸亀製麺では100%国産小麦を使用しており、その一大産地である北海道は重要な地域になります。そのためトリドールホールディングスは北海道美瑛町と地域包括協定を締結。2025年10月には、北海道内の丸亀製麺管理職が参加し、町内の方々へのうどん教室や地域清掃イベントを共催しました。



美瑛町での美観活動「ビューティフルデー」への参加(左)とキッチンカーでのうどん無償提供(右)



持続可能な調達に向けた調査実施

持続可能な調達に向け、2024年度は国内トリドールグループの取引額の約8割に達するお取引先様に対し、持続可能な調達に関するアンケートを実施しました。アンケート項目は国連グローバル・コンパクトの10原則に基づき、幅広いサステナビリティ項目について調査を行いました。

■ 調査カテゴリー

- 1:サステナビリティにかかわるコーポレート・ガバナンス
- 2:人権
- 3:労働
- 4:環境
- 5:公正な企業活動
- 6:品質・安全性
- 7:情報セキュリティ
- 8:サプライチェーン
- 9:地域社会との共生